立命館大学大学院　言語教育情報研究科

英語教育学コース　在学生・修了生インタビュー

テーマ「仕事と研究の両立」

言語教育情報研究科の英語教育学コースは、そのカリキュラム内容から、現在中学校・高校等教育機関で既に英語教育に携わっている方が、更に高度な専門知識や実践力を修得するための場として進学されるケースも多く、「仕事と研究の両立は可能か？」といった問い合わせを志願者の方からよくいただきます。もちろんこれは英語教育学コースだけに限った話ではありません。他のコースでも同じようにリカレントやリスキリング等を目的に、仕事をしながら言語を研究し、新たな挑戦をしたいという声を耳にします。両立の仕方は職場の調整度合や研究計画によってケースバイケースであり、その可否は簡単に決められるものではありません。

今回こちらのインタビューでは、現在英語教育学コースに在学し、仕事を休職しながら研究をされている社会人院生の方にその経緯や現状をお伺いし、「仕事と研究の両立」について具体的に語っていただきました。休職せず、2 年間で研究科の学位を取得された修了生へもインタビューしていますので、是非そちらと合わせてご覧ください。

お話を伺った方　A さん
仕　　事：中学校教諭（英語）
勤務状況：休職中（2年間）
入試方式：社会人（協定）入学試験
週あたりの通学日数：
　　1 年目「月・水・木・金」通学・「火」オンライン受講
　　2 年目「月・水・木」通学

Q1_立命館大学大学院言語教育情報研究科の英語教育学プログラム（現：英語教育学コース）を選んだ理由を教えてください

・専修免許を取得できるから
・勤務先が言語教育情報研究科と協定を締結しており、社会人入学試験（協定）で受験できたから

Q2_大学院進学のタイミングは何かきっかけがあったのでしょうか？

教員を続けながら大学院で学ぶ機会を得られる制度があることは、以前から知っていました。仕事のタイミングなどでなかなか踏み切ることができずにいましたが、評価や ICT の使用、指導法など、様々な面で英語教育が大きく変化している中で、専門的な知識を身につけたいという思いを常に持っていました。

約10年間教員として経験を積んだ今が挑戦に良い時期ではないかと感じたことと、職場の管理職が背中を押してくださったことが、今回の進学のタイミングにつながりました。

Q3_研究テーマについて教えてください。また、その研究は大学院修了後ご自身の仕事にどのように役立つと考えておられますか？

現場で活かせる魅力的な研究が多くあり、まだ研究テーマを絞り込むことはできていませんが、現時点では、プロセスジャンルアプローチに基づいたライティング指導の効果について研究したいと考えています。

中学校でのライティング指導の中に明示的な指導や循環的なプロセスを取り入れ、協働的な活動を組み込むことで、生徒がジャンルについての知識やライティングのストラテジーを身につけることができるのではないかと期待しています。

研究テーマにとどまらず、授業を通して学んだことや得た知識は、自分自身の教師としての意識や授業実践に大きく影響を与えていると感じています。

Q4_言語研の英語教育学コースに社会人として仕事をしながら進学しようとする場合、実際に A さんが通ってみて仕事と研究を両立させるためにどのような工夫が必要だとお考えですか？

休職をして大学院進学をしたことは、私にとってベストな選択であったと思っています。休職をせずに２年以上かけて修了するという方法もありましたが、様々なことを考慮した結果、教員の仕事と学業を両立することは物理的にも精神的にも難しいと判断しました。また、専修免許を取得するためには定められた授業を受講する必要があり、夕方やオンラインの授業だけでは2年間で単位を取得することが困難であることも理由の一つでした。

大学院の授業は、一つ一つの内容がとても濃いと思います。私の場合、授業内容を理解するために家での予習は必要不可欠でした。また、授業ごとに様々な課題が与えられます。英語で書かれた教科書や論文などを読み内容を理解してまとめる、英語でのプレゼンテーションの準備をするなど、一つ一つの課題に時間がかかりました。1 年目は、平日だけではなく、週末に一日中課題に取り組む日も多くありました。

大学院の学びは深く、興味のあることを自分自身でどんどん掘り下げていく必要があります。その点を考慮すると、職場の理解を得られるのであれば、休職して学業に集中できる環境を作ることも一つの選択肢になると思います。

Q5_入学してから修了するまでの履修のペースや職場との調整事項について教えてください。

1年間は休職が決まっていたので、その間にできる限りの単位を取りたいと思っていました。また、入学時に、1セメスターに5～6科目を取るのが良いとアドバイスを頂いたので、1 年目の春セメスターは6つの科目を受講し、夏に集中講義1科目を受講しました。秋セメスターは、大学院のリズムにも慣れてきたので、7つの科目を受講しました。1 年目で修了に必要な30単位中、28単位取得できました。

しかし、専修免許に関わる単位の取得が4単位分残ってしまったので、2 年目の春セメスターで受講する必要がありました。2 年目は、職場に復帰して学業の両立ができればと考えていましたが、職場の管理職とも相談し、修士論文に向けての研究と授業と仕事を同時並行で行うのは厳しいと判断して、休職することにしました。

Q6_オンライン授業は週にどれぐらい履修されていますか？また A さんが考えるオンライン授業のメリット・デメリットを教えてください。

1 年目は1つの科目だけがオンラインでした。

メリットは、時間の面です。私の場合、通学に 1 時間半以上かかるので、家で受講できることはありがたかったです。また、対面とオンラインを併用して下さる授業があり、どうしても授業に出席できない時にとても助かりました。授業を録画したものを manaba+R（予習・復習や講義の補足など、授業を支援する立命館大学の e-learning ツール）にアップして頂けたことで、休んでいた授業内容を理解できたことはとてもありがたかったです。

デメリットとしては、一方的な講義内容になることが多いのではないかと思います。また、受講生同士の関わりが少ないので、話し合いの場面で活発な議論にならないことがありました。

Q7_最後に、言語研に来てよかったこと、また今後に向けた抱負や力を入れて取り組みたいことなどについて教えてください。

教員をしているので、仕事に直接関わる知識を多く得られる点が良かったです。また、実際の生徒を思い浮かべて、「復帰したらこんな授業をしたい」「この知識を活かしたい」と思える授業が多くありました。実践的な知識だけではなく、第二言語習得理論など、専門的な知識を身につけられる点もとても刺激的でした。

同じ立場で学んでいる社会人の学生と、興味や悩みを共有できるという点も、とても良い経験になりました。勇気づけられることも多くありました。

教育について熱い思いを持っておられる情熱的な先生方が多く、「教師」や「教育」の役割について深く考えることができました。

今回、言語教育情報研究科で学んだことで、新たな世界が開けたように思います。現場に復帰した後も、学び続け、努力を続けて、生徒が力をつけられる授業実践ができるように努力したいと思っています。